

南スーダンで自衛隊が武力行使？！

検査技師主任 高橋 司さん



PKOとは？… 平和維持活動 (Peace Keeping

Operations) は、国際連合による国際紛争への対応の一つで、非武装または軽武装の要員が、基本的に停戦合意が得られた後で紛争当事者の間で紛争拡大の防止に努める活動のこと。

日本の PKO 参加の歴史…1990 年湾岸戦争・カンボジア・モザンビーク・ゴラン高原・インド洋・イラク・ソマリア・南スーダンに。

南スーダンでは…2013 年 12 月に大統領派と反大統領派の内戦が勃発。今年 7 月には首都ジュバを中心に大規模な戦闘が行われ、それ以後も各地で戦闘が頻発している。今年 7 月には、米国人も含む NGO 職員らが、南スーダン軍の兵士らに襲撃を受け、女性職員らが集団暴行され、その場にいた現地人記者が殺されるという事件が発生。自衛隊員の武器使用は、交戦権を否定した憲法第 9 条に完全に違反するもの。

停戦が実現したとは言い難い…PKO 協力法にも反する。首都ジュバでの今年 7 月の戦闘では、民間人を含む約 300 人が死亡、PKO 部隊でも、中国軍の隊員 2 名が死亡、5 名が負傷する事態となった。

PKO 協力法の 5 原則に反する…(1)紛争当事者間で停戦合意があること、(2)受入国と紛争当事者の同意があること、(3)中立的立場を厳守すること、(4)以上のいずれかが満たされなくなった場合は即時撤収・撤退すること、(5)武器使用は要員の生命保護など必要最小限が基本であること。

自衛隊員が拘束された場合、捕虜としての人権が守られない…自衛隊員は紛争当事国の戦闘員ではないので、ジュネーブ条約上の『捕虜』となることはない。つまりは自衛官が拷問されたり、虐殺されたりしても文句が言えない、ということの意味する。

南スーダンで PKO 派遣の 自衛隊が武力行使することは危険

●日本の PKO 派遣はこんなにもあったんですね。海外からみて日本人の魅力は平和主義者であることだと思ふ。戦闘に参加する自衛隊だと国際的な信用をなくすでしょう。

●自衛隊の家族が「無事を祈る」新聞記事をみて、そんなにも危険なことなんですね。

●戦争法を国会で通して、自衛隊を南スーダンに送り込む。一度武力行使が起きたら、歯止めが効かなくなると思っています。

●ニュースで報道されているように、実際はすごいことになっているんですね。日本はすでに戦



11月19日芦別市でスタンディング

争に加担しているといった感じですよ。

●よくわからないが、すごく危ないと思う。武器を使用することは、殺したり殺されたりする。戦争を二度としないという反省はないのですね！

●安全と言っても、危険なところに自衛隊は送ってほしくない。武器を持つのは危険なこと。

●カンボジアで日本から派遣された文民警察官が殺される NHK テレビを見ました。もし私がトランプ氏だったら、自衛隊にアメリカ軍の肩代わりをさせる。自衛隊員が殺されたら、もっと強い軍隊にし戦争するでしょう。とても危

11月28日、平診九条の会運営委員会を14名の参加で開催しました。戦争体験を聞く10.回目」を事務主任の工藤祥樹さんが報告。続いて検査主任の高橋司さんが「南スーダンで自衛隊が武力行使?!」のミニレクチャーを行い、全員が「一言発言」をしました。

平診九条の会 かべしんぶん

2016年12月号
(通算37号)
発行：平診9条の会

戦争法廃止を野党
と市民の共闘で！

・南スーダンから自衛隊派遣中止を！
・原発の再稼働はダメです！

憲法 9 条は世
界の宝です

戦争体験を聞く 第10回

94歳男性のAさんから事務主任の工藤祥樹さんが聞き取り、発表しました。その要約です。



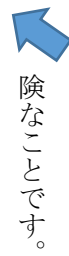
樺太の多蘭内(たらんない)で大正11年に生まれる。人口は3千人くらい。林業が盛んで、丸太を切り、川に流して運んでいた。昭和12年から札幌靴屋で働き始めた。昭和18年、旭川へ教育招集に行き、3か月間訓練を受けた。第二乙種に合格し、軽機関銃の打ち方を覚えた。その後は地元に戻り、産業組合(今の農協)に務め、米の配給係となり、各家庭に米を配給する仕事をした。

昭和20年、終戦を多蘭内で迎えた。Aさんはロシア語が話せなかったが、通訳として使役した。ロシア人が村の人に危害を加えることはなく、友好的であった。この年、Aさんは同じ村の女性と結婚したが、町長とロシア人が結婚式に立ち会った。ある夜、港からひっそりと出航する船があり、ロシア警官がその船に向けて「ストイ！」と必死に叫んでいた。呼びかけに対し船は止まらず、ロシア人が銃を発砲し、乗っている知人の日本人が撃たれ亡くなった。

昭和23年役場から日本に引き揚げるように言われた。引き揚げ船は函館に到着し、父親の出身である八雲に、その後栗山の醸造所で働かせてもらう。以前働いていた札幌靴屋の武藤さんから、旭川で一緒に働かないかと声がかかり承諾した。武藤商店(問屋)では売れ残った在庫を当時景気の良かった炭鉱地である芦別に売りつけに行っていたが、昭和28年Aさんは独立することとなった。付き合ひのあった芦別にある五山市で開業することになった。その店の名は「はぐりや」で、薄利多売から来ており、その名前を使わせてもらうことになった。その後、昭和60年に五山市が立ち退きになり今の家で細々と商売を続けている。

※五山とは三菱芦別炭鉱、三井芦別炭鉱、油谷炭業、高根炭鉱、明治炭業の5つのこと。
※現在五山市は焼肉タカダの隣あたりになります。

戦争に対しては運がよくつらい経験をすることはなかった。引き揚げてから知ったが、日本人は引揚船に乗ることが出来たが、朝鮮人は乗ることが出来なかったという話を聞いた。また、朝鮮人と結婚した日本人も日本に戻る事が出来なかったそう。



険なことです。

●PKOのことはよく知らなかった。自衛隊が訓練した武器を使用することは危険です。

●どうしても、政府は駆けつけ警護のできる自衛隊を送りたいのだろう。アメリカの圧力、武器・兵器を作る会社の売り込みもあるのか・・・

●「PKO」「南スーダン」の実態もよく知りませんでした。マスコミもわかるようにして欲しいです。

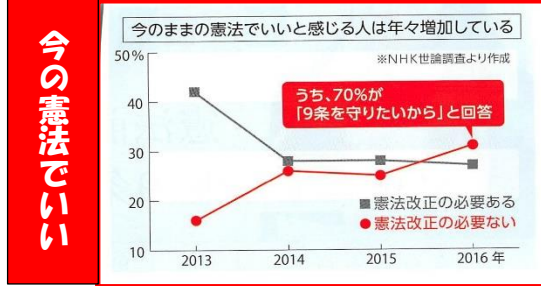
●PKOへの自衛隊派遣の実態を国民に政府は説明していない。「守りだけではダメだ」と自民党は宣伝するけれど、「戦争しない国」の大切さも多くの人に知らせることは大切です。

●政府も「戦争する国」と言われるのはいやなのでしよう。「戦闘ではなく衝突」「戦争ではなく事変」と戦前から言っています。でも今の安倍政権は本気で「戦争する国」にしようとしている。本気で声を上げないと、若者が戦争に動員される危機感をもっています。

「駆けつけ警護」は公式英訳がない!?
so-called "kaketsuke-keigo"
戦闘の危険をごまかすため?
「戦争」を「事変」というごまかしと同じです。



	現状	法整備後
PKOなどでの武器使用の拡大とは?		
自分や、自分の近くにいる人が襲われそうになった時に守る(自己保存)	可能	可能
仕事に伴って武器を使う(任務遂行)	不可	可能
離れたところにいる人を助けに行く(駆けつけ警護)	不可	可能



12月の平診9条の会運営委員会は12月19日(月) : テーマは「平和な日本と青年の役割」です。老いも若きもお集まりください。クリスマスケーキも用意。